



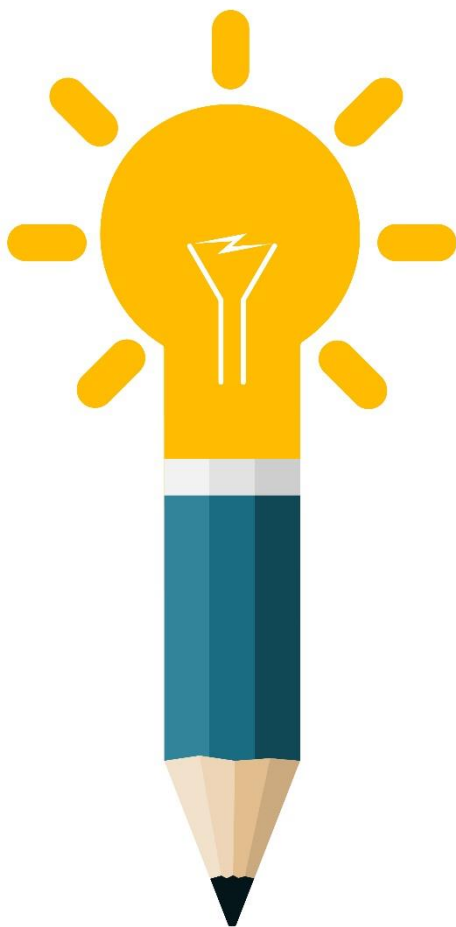
BNY MELLON
INVESTMENT MANAGEMENT

情報提供資料
2020年4月

BNYメロンからのメッセージ

利回りの大切さ

～先行き不透明な今こそ利息収入がモノをいう～



BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第406号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

BNY MELLON INVESTMENT MANAGEMENT JAPAN

BNYメロンからのメッセージ

利回りの大切さ

～先行き不透明な今こそ利息収入がモノをいう～

世界のマーケットは、引き続き新型コロナウイルスの影響を受けて不安定な相場となっています。

当資料では、このような先行き不透明感の高い環境下だからこそ、投資対象として魅力度を増す「利回り資産」について、下記の6つの疑問にお答えする形でご紹介させていただきます。



利回り資産に関する疑問

- 1 利回り資産とは？ ... 2ページ
- 2 値上がり益と利息収入、強いのはどっち？ ... 3ページ
- 3 利回りの高い資産は？ ... 4ページ
- 4 利息収入がもたらす複利効果とは？ ... 5ページ
- 5 利回り資産のリスクを抑える方法は？ ... 6ページ
- 6 今こそ注目する理由は？ ... 7ページ

(おわりに) BNYメロンから皆様へのメッセージ

1

利回りの大切さ

利回り資産とは？

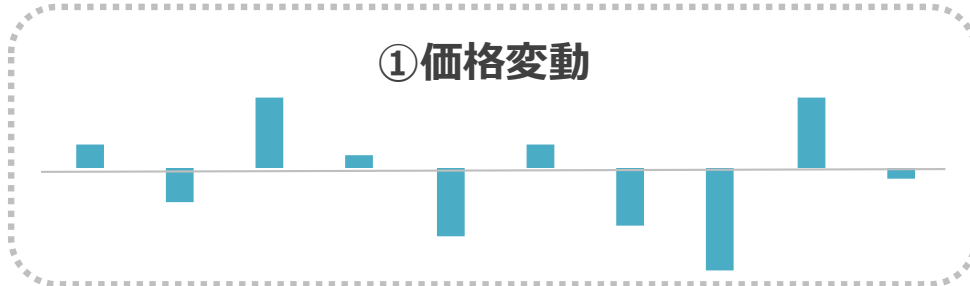
いつでも安定した利息収入の獲得 が期待できる債券

利回り資産は、主に安定した利息収入を得られる債券などの資産を指します。

株価の変動が大きく、配当が出るか分からない株式に比べて、**相対的に価格変動が小さく、安定した利息収入の獲得が期待できる利回り資産は、今のような先行き不透明な環境で投資妙味が一層増している**と考えられます。

一般的な利回り資産のリターンのイメージ

① 価格変動



価格の変動幅は
株式より小さい傾向ではあるが
相場環境によりまちまち

+

② 利息収入



安定した利息収入を
継続的に獲得

||

トータルリターン（①価格変動+②利息収入）



価格が下落した局面でも
利息収入が
クッションの役割を果たし
全体のリターンを押し上げ

※上記はイメージです。すべての利回り資産について上記のようなリターンが得られるわけではありません。

※上記コメントは作成時点のものであり、今後、予告なしに変更される場合があります。

2

利回りの大切さ

値上がり益と利息収入、強いのはどっち？

過去15年間においては
利息収入が値上がり益を大きく上回る傾向

主な利回り資産である5資産について、過去15年のトータルリターンを価格変動と利息収入に分けたところ、**すべての資産で利息収入が値上がり益を大きく上回りました**。利回り資産はリーマンショックなどで一時的に価格が大きく下落する局面もありましたが、**利息収入は安定して積み上げられることで、主要なリターン源泉となっています**。

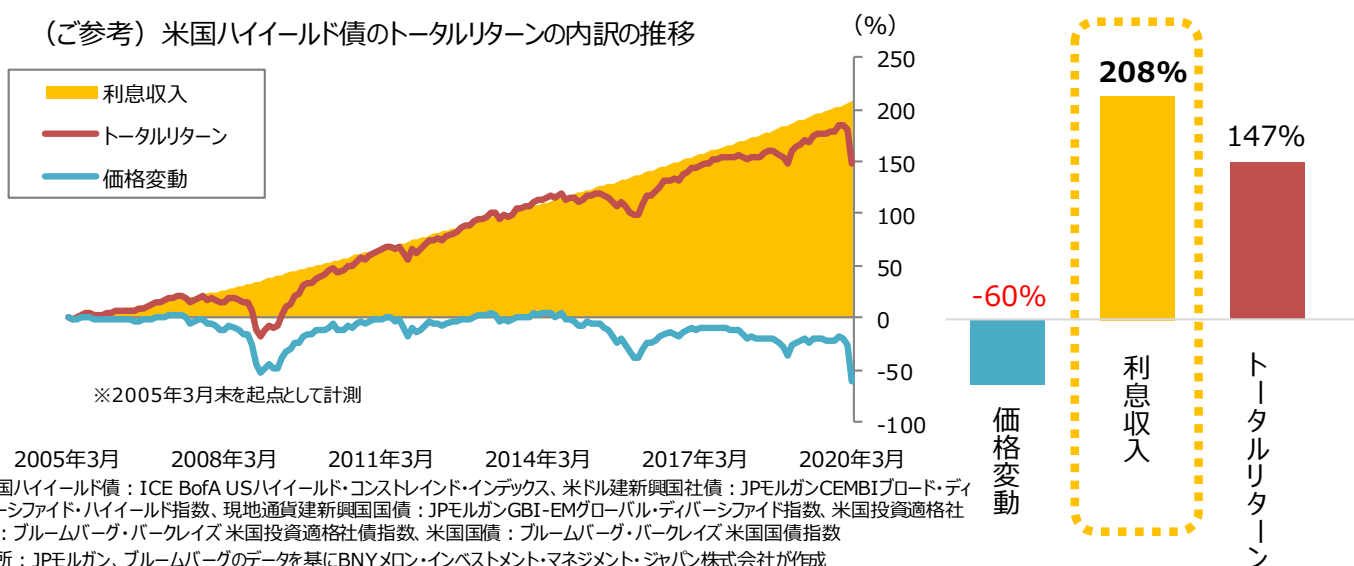
過去15年間における利回り資産のトータルリターンの内訳 (%)

(2005年3月末～2020年3月末、現地通貨ベース)

	価格変動	利息収入	トータルリターン
米国ハイールド債	-60	208	147
米ドル建新興国社債	-70	221	152
現地通貨建新興国債	64	156	220
米国投資適格社債	4	105	109
米国国債	33	54	87

※価格変動は、上記のトータルリターンから利息収入を差し引いたデータを基に算出。

(ご参考) 米国ハイールド債のトータルリターンの内訳の推移



3

利回りの大切さ

利回りの高い資産は？

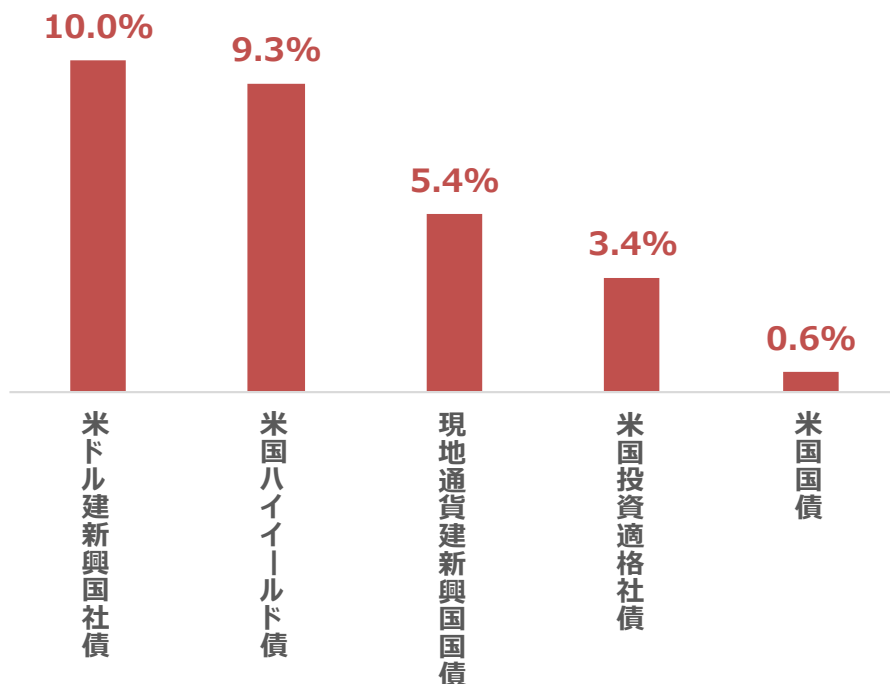
新興国債券やハイイールド債 の利回りが高水準（2020年3月末）

主な利回り資産の現在の利回りは、下記の通りとなっています。

世界的な低金利環境の中、**新興国債券やハイイールド債などは、高い利回りを維持**しています。
足下では、**コロナウイルス拡大により債券価格が下落したことも受けて、利回りが上昇**しています。

主な利回り資産の足下の利回り

(2020年3月末時点)



米ドル建新興国社債：JPモルガンCEMBIブロード・デバースファイド・ハイイールド指数

米国ハイイールド債：ICE BofA USハイイールド・コンストレインド・インデックス

現地通貨建新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・デバースファイド指数

米国投資適格社債：ブルームバーグ・バークレイズ米国投資適格社債指数

米回国債：ブルームバーグ・バークレイズ米回国債指数

出所：JPモルガン、ブルームバーグのデータを基にBNY Mellon・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

4

利回りの大切さ

利息収入がもたらす複利効果とは？

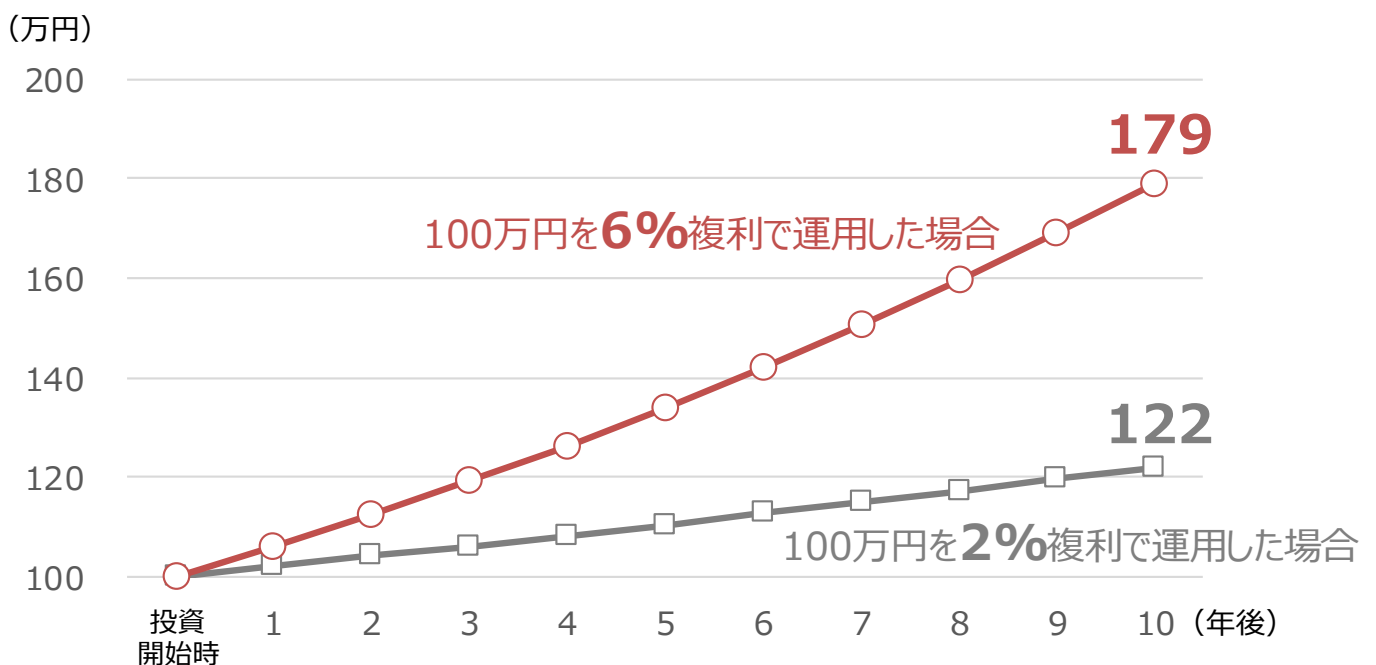
利息が利息を生むことで より大きなリターンをもたらすこと

債券投資で得られる利息収入は獲得後、再投資することができます。
利息収入は、このように積み重なっていくことが期待されるため、特に中長期の投資においては、数パーセントの利回りの差が後々大きな投資成果の差となることがあります。

利回りの違いによる10年後の投資成果の違い

100万円を2%複利で運用した場合、10年後に122万円（+22%）になる一方で、6%複利で運用した場合は179万円（+79%）となります。

利回り自体の差は3倍ですが、複利効果によるその投資成果の差は**3.6倍**となりました。



※100万円を複利で10年間運用した場合のシミュレーション。
※上記では、税金、手数料等を考慮していません。実際の運用とは異なります。また、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

5

利回りの大切さ

利回り資産のリスクを抑える方法は？

分散投資のできる投資信託を活用

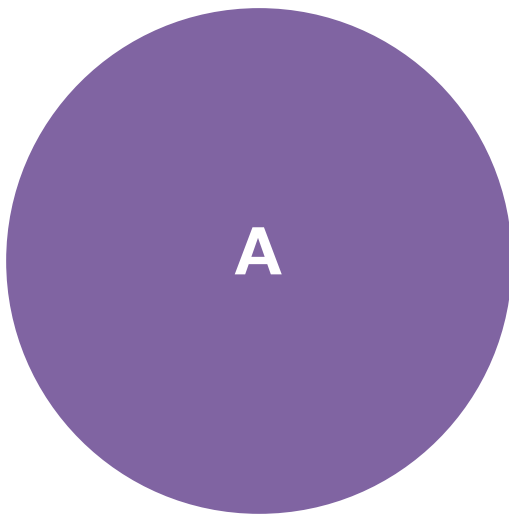
一般的に、**利回りの高い債券は、利回りの低い債券に比べてその分リスクが高い**と言えます。これは、主にその債券を発行する企業・国の信用力の違いによるものです。ハイイールド債や新興国の債券は、利回りが高い分、デフォルト（債務不履行）となる可能性が高いと考えられているのです。

しかし、**分散投資により、特徴の異なる様々な銘柄に投資をすることで、デフォルトによる影響を低減することができます。**投資信託では、プロのファンドマネジャーが徹底したリサーチに基づいて**選び抜いた銘柄に分散投資を行います。**また、足下の環境に合わせて国や業種の配分を機動的に調整する投資信託も多く、**投資者ご自身では難しいリスク管理を任せることができます。**

個別投資と分散投資のイメージ（社債への投資の場合）

個別投資

（A社だけに投資）



A社がデフォルトすると大きな被害

分散投資

（A～T社の様々な業種・企業に投資）



A社がデフォルトしても被害は小さい

※上記はイメージです。実際の運用とは異なります。

6

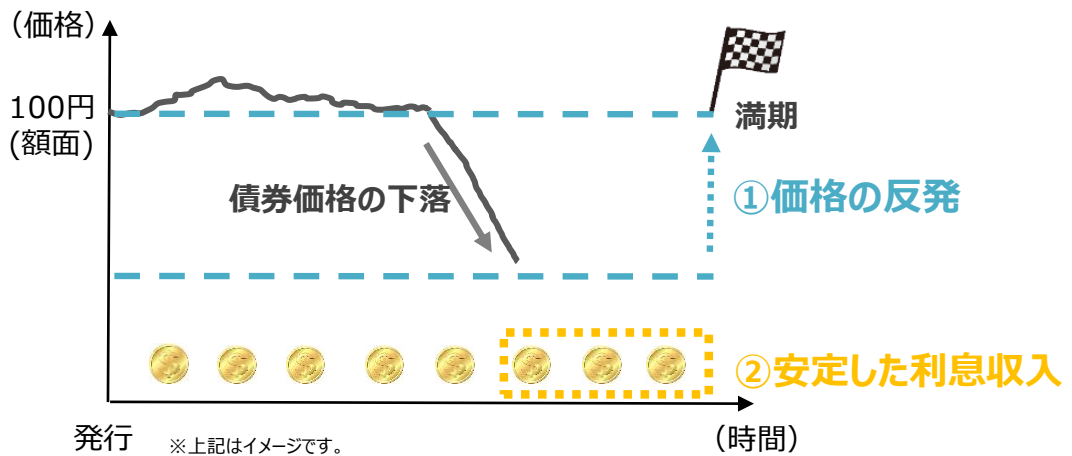
利回りの大切さ

今こそ注目する理由は？

安定した利息収入に加えて
価格の反発によるリターンも狙える

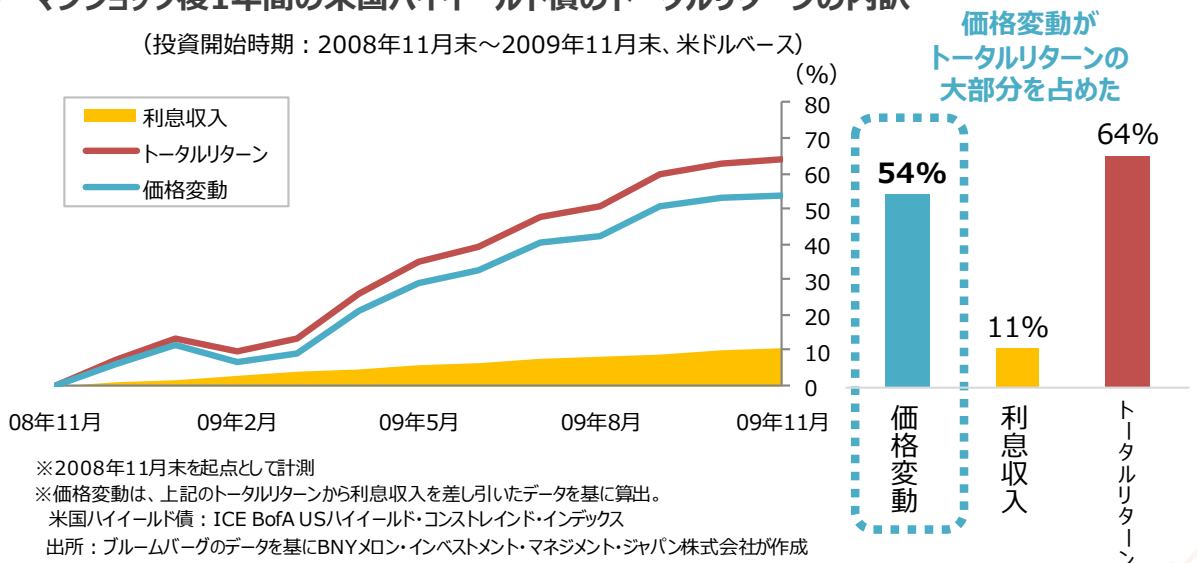
足下では、コロナショックの影響を受けて、債券市場も下落しています。しかし、デフォルトしなければ、債券価格は満期には額面に戻ります。つまり、価格が下落した今、債券に投資をすることで、今後の①価格の反発と②安定した利息収入の双方が狙えるのです。デフォルトについては、前のページで触れた通り、投資信託などを用いた分散投資を行うことで、デフォルトによる影響の低減が期待できます。

債券価格の下落後のリターンのイメージ



(ご参考) リーマンショック後1年間の米国ハイレード債のトータルリターンの内訳

(投資開始時期：2008年11月末～2009年11月末、米ドルベース)





おわりに

BNYメロンから皆様へのメッセージ

世界各国で新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。一方、米国や欧州ではピークは過ぎたとの見方もあり、ニューヨークなど一部の都市でもロックダウン（都市封鎖）の緩和に向けた動きも見られ始めました。こうした動きによる経済活動再開期待の高まりや、各国の大規模な経済政策を背景に、世界の株式市場は4月に入り、上昇する場面も見られています。

一方、実体経済に目を向けるとどうでしょうか。米国で爆発的に増加している失業者数をはじめ世界各国の経済指標からは実体経済への深刻な打撃が見られ、先行きについて楽観視できる状態とは到底言えません。2020年の世界経済の成長率は-3.0%*と、世界恐慌以来91年ぶりの低水準が見込まれています。

*IMFによる2020年4月時点の予想

1918年に流行したスペイン風邪は完全収束までに2年以上もの期間を要したと言われています。今回の新型コロナウイルスについても、世界各国で収束するまでにどの程度の期間を必要とするのか、私達にその答えを知る術はありません。

では、こうした不透明な環境で私達はどのような資産に投資の目を向けるべきでしょうか。我々は今回、その答えの1つの案として、安定したリターンの獲得を狙える「利回り資産」をご紹介します。こうした環境だからこそ、改めて“利回りの大切さ”を見つめ直し、中長期的な資産形成の手法として「利回り資産への投資」という選択肢を検討してみたいはいかがでしょうか。



2020年4月

BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社

<投資信託に係るリスクについて>

投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、金利の変動等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては各投資信託の投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

<投資信託に係る重要な事項について>

- 投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、取得、換金の申し込みの受付を行わない場合があります。
- 投資信託によっては、クローズド期間として、原則として換金が行えない期間が設けられていることや、1回の解約金額に制限が設けられている場合があります。
- 分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

<投資信託に係る費用について>

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）等をご覧ください。

- 申込時に直接ご負担いただく費用・・・申込手数料 上限3.5%（税抜）
- 換金時に直接ご負担いただく費用・・・信託財産留保額 上限0.70%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限 年率1.87%（税抜）
- その他費用・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。

※上記費用の総額につきましては、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に各投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

<ご留意事項>

- 当資料は、BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が情報提供を目的として作成した資料であり、特定の有価証券の勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性・完全性について保証するものではありません。
- 当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに今後変更されることがあります。
- 当資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
- ファンドに生じた損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。



BNY MELLON
INVESTMENT MANAGEMENT